海蔵寺だより

第24号
令和4年8月
発行

令和4年の8月、今年も暑い暑いお盆がやって参りました。海蔵寺檀信徒の皆様からは、いつもながら厚いご支援と激励を頂きながら、お寺の興隆はもちろんのこと、副住職への道も着実に歩んでいる昨今です。

「瑞世（ずいせ）」 ―― 両大本山へのご拝登（はいとう）

「ご拝登」とは、お寺を訪れ、そこのご本尊様やご開山様などにご挨拶をすることです。

曹洞宗には現在、二つの大本山があります。福井県永平寺町にある、**吉祥山永平寺（きちじょうざんえいへいじ）**と、神奈川県鶴見市にある、**諸岳山総持寺（しょがくさんそうじじ）**です。曹洞宗の一和尚になるにあたり、この二大本山へ挨拶に訪れ、一日だけ住職を務めることを**瑞世（ずいせ）**と呼びます。

曹洞宗では和尚として認められるために、下に挙げる五つの段階を踏まなければなりません。

得度（とくど）　仏戒（ぶっかい）を授かり仏弟子となる。

安居（あんご）　大本山や専門僧堂へ行き修行をすることを安居という。

結制（けっせい）　修行中の、集中修行期間である制中（せいちゅう）を経ること。そしてその結制中に、法戦式（ほっせんしき）を行うことも含まれている。

伝法（でんぽう）　曹洞宗で唯一の門外不出の儀式。幕で隠された空間の中で、古来より伝えられる仏法や作法が、七日間に渡って師匠から弟子に伝授される。

瑞世（ずいせ）　転衣（てんえ）とも言う。両大本山の一夜住職を務める。正確には、両大本山にそれぞれご拝登し、朝課（朝のお勤め）にて導師（法要の中心となる役）を務める。

現在は法戦式までが終わっているので、**次の段階が瑞世**となる訳ですね。

瑞世も去年の法戦式と同じく、基本的に一人の僧侶の人生に一回きりの行事となります。現在海蔵寺では、この瑞世に**団体参拝で行く**ことも検討されています。もし催行が決まった際には、ぜひとも多くの方に参加して頂きたいと思う所であります。

ウラ面へ
つづきます！

←大本山総持寺（左）
←大本山永平寺（右）

お寺特集：低頭（ていず）・問尋（もんじん）

仏教の行事や生活の中には、数多くの作法が存在します。その作法の中で、一番多い動きが「お辞儀」です。仏教ではこのお辞儀の事を「低頭（ていず）」や「問尋（もんじん）」と呼び、**何の為にするのかも場合によって異なります。**皆さんに一番身近な例としては、焼香の時のお辞儀が挙げられます。

また、法要の中で低頭や問尋は、**鐘を鳴らすタイミングなどの合図にもなっています。**お寺によって違いはありますが、大きな法要で　ゴーン！と鐘が鳴るとき、多くの場合は誰か（ほとんどは、ご導師さま）が低頭しています。**こういうタイミング合わせが数多く積み重なり、一糸乱れぬ美しい法要が出来ていく。**僧堂で修行僧が必死に練習しているのは、こういった事なんですね。

コラム：焼香の時の問尋

という事で、今回は焼香の時の問尋を特集します。上で問尋の事を特集したので、気になる方もいらっしゃるはず。気にならない方も、寛大な心で少しお付き合いください。
皆さんがお葬式などで前に出て焼香をするときは、４回のお辞儀をします。実はそれぞれ、①**借香問尋**、②**焼香問尋**、③**帰位問尋**、④**謝香問尋**という名前があります。

焼香をする

① **借香問尋**
導師さまに「お香をお借りしますよ。」

② **焼香問尋**
焼香する仏さまに、ごあいさつ。

③帰位問尋
焼香する相手に「それではこれで、失礼致します。」

④ **謝香問尋**
導師さまに「お香をお借りしました、ありがとうございます。」

導師さま（葬式などをする住職）はこれに応える意味合いで、皆さんがご焼香している間は合掌しています。

こういった作法は、強制されるものではありません。しかし、作法に則って乱れ無く挙行されるご供養や法要は、心を落ち着かせ、より質の高い供養を行うことができると信じています。

編集後記

今回で、海蔵寺だよりを担当し始めて４回目となりました。最近になり突然、県曹青（青森県曹洞宗青年会）の役員に任命され、また母校である正法寺に仕事で遠征しと、外向きの活動がぐっと増えてきました。趣味の方では、６月末に日光へ登山に行った折、山蛭（やまびる）に咬まれてしたたか流血するという事件がありました（笑）

未だコロナ禍ではありますが、できる範囲で充実した毎日を送らせてもらっております。今年もはや残り４か月、仕事であれ趣味であれ、活発に生きて参りましょう。　　合掌